

新たな 都立中央図書館整備 に係る有識者会議 (第1回)

令和7年7月16日
東京都教育庁



目次

- 1 会議設置の背景・目的
- 2 前提条件の整理
 - (1) 都立図書館について
 - (2) 都立中央図書館の概要
 - (3) これまでの検討状況
 - (4) 整備地について
- 3 サービス内容について

1 会議設置の背景・目的

○令和5年度の「都立中央図書館の在り方を考える有識者会議」でいただいたご意見を参考にしながら、令和7年4月に「**都立中央図書館の在り方**」を公表

➤“**Library for Creation（創造・交流図書館）**”をコンセプトとし、3つの機能を付加

・知的好奇心を喚起し学びを深める

・人々の創造や交流を生み出す

・多様な知を集積発信

➤**渋谷区神宮前五丁目地区への移転整備**

○神宮前五丁目地区では、まちづくり方針（令和7年4月公表）において、

「**誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』**」を将来像に掲げ、創造・交流図書館を軸としたまちづくりを検討

➤まちには、劇場や起業支援、こどもの体験機会創出など、様々な機能を導入予定



本有識者会議では、新たな3つの機能で展開する**サービス内容の具体化**や、それを実現するための**施設、設備、運営手法**について検討。また、まちに集積を予定する他機能との連携についても検討。

2 前提条件の整理

(1) 都立図書館について

① 都立図書館の沿革

- 1908年 東京市立日比谷図書館開館
- 1943年 都制施行、都立図書館となる
- 1973年 都立日比谷図書館の蔵書を引き継ぎ、
有栖川宮記念公園内（現在地）に
都立中央図書館開館
- 1987年 都立多摩図書館開館（立川市）
- 2017年 都立多摩図書館が国分寺市へ移転、開館



【都立中央図書館】

② 都立図書館の使命

「東京の未来を拓く力となる知の集積・発信」を使命に掲げ、
国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の課題解決を支援

(1) 都立図書館について

③ 機能・サービス

▶ 区市町村立図書館や学校等に対する支援

- * 図書館職員向けの研修会の実施、講師派遣、担当者会の開催
- * 協力貸出、協力レファレンス
- * 学校支援サービス（選書、読書活動・調べ学習の支援等）
- * 政策立案支援サービス（都職員の情報収集を支援）

▶ 都民の調査研究・学習活動の支援

- * 閲覧・複写等の来館サービス（個人貸出は行わない）
- * レファレンスサービス（来館、電話、メール等での調査支援）
- * 江戸城の設計図など貴重資料を多数所蔵

④ 組織

- * 中央図書館及び多摩図書館の2館で機能を分担し、一体的に運営
- * 中央図書館は調査研究、多摩図書館は雑誌及び児童・青少年資料サービスの機能

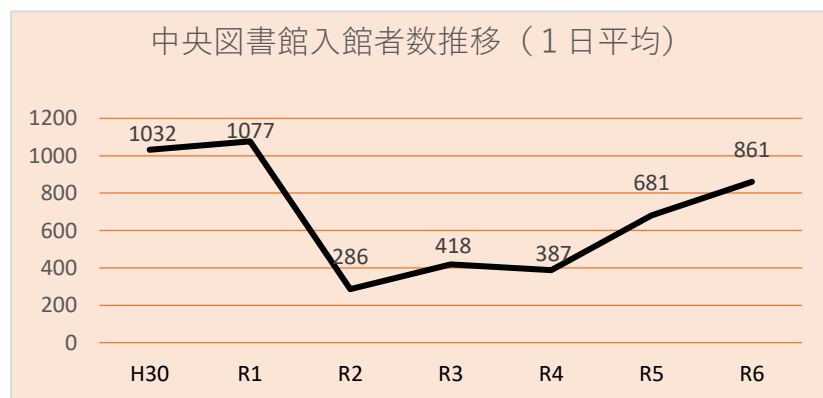
(2) 都立中央図書館の概要

① 施設規模等

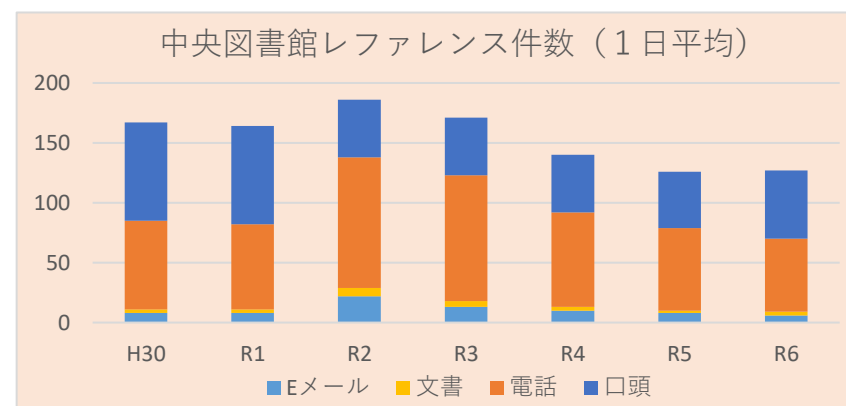
- * 地上5階・地下2階、延べ床面積 約23,196m²
- * 蔵書数約229万冊、開架約35万冊 閲覧席約900席

② 近年の利用状況

- * 1日平均入館者数は、ここ3年は増加傾向
- * 口頭でのレファレンスは増加傾向にある
(R5とR6を比較すると、口頭は1日平均47件から57件に増加)



※ R2.2からR5.5まで新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨時休館や入館制限を実施



(2) 都立中央図書館の概要

重点的情報サービス

4つの分野について重点的に情報を集めたコーナーを設け、都民の課題解決を支援するほか関連サービスを展開

○都市・東京情報

都政資料をはじめとする「東京」と、都市政策など「都市」に関する資料・サービスを提供

○ビジネス情報

企業情報や業界・市場動向等を調べるための資料・サービスを提供

○法律情報

身近な法律問題から法令の専門的な解説書まで、法律に関する資料・サービスを提供

○健康・医療情報

病気や薬等、医療に関する資料・サービスを提供

デジタル情報サービス

○デジタル化した資料をWebページで公開



東京都立図書館デジタルアーカイブ 江戸・東京デジタルミュージアム

○オンラインデータベース

新聞記事、雑誌記事、人物情報、ビジネス情報、法律情報などについて、30種類を超える各種オンラインデータベースを提供

○電子書籍

館内にて、タブレット端末を貸出しているほか、Digital BookShelf（電子書架）（※）を経由して利用者自身の機器で閲覧可能

※図書館の本棚を散策して新しい本と出会う仮想体験を提供するサービス

(2) 都立中央図書館の概要

多言語による情報サービス

○話題の洋書コーナー

外国語の新着図書・雑誌を集中して展示しているほか、海外で話題の図書を紹介

○日本語学習コーナー

初心者から上級者まで役立つ日本語学習用の図書を、言語別・テーマ別に展示

○中国語、韓国・朝鮮語資料コーナー

中国語資料約8万冊を所蔵し、うち約8000冊を開架
韓国・朝鮮語資料約2万8000冊を所蔵し、うち約4000冊を開架

調査研究に役立つ環境

○交流ルーム

ラーニングコモンズとして活用できる部屋を用意
ホワイトボードやプロジェクターの貸し出し有



○調査研究ルーム

セカンドオフィスや書斎として活用できる個人席
全席に照明、電源付き

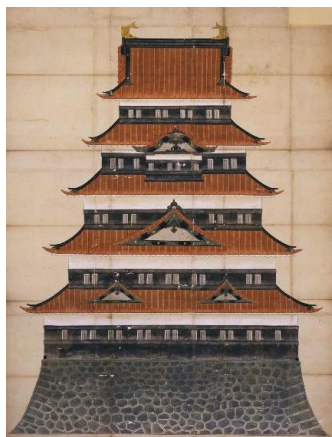


(2) 都立中央図書館の概要

主なコレクション

○特別文庫室の貴重資料

江戸時代後期から明治時代中期の資料を中心に約24万3千点を所蔵。美術館等への貸出実績多数



『江戸御城御殿守正面之絵図』



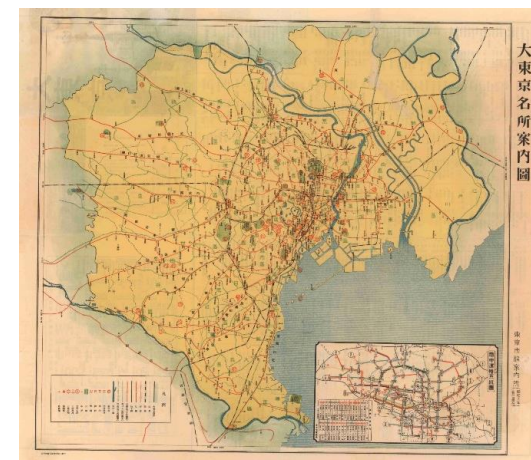
『東京名所之内 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図』
歌川広重画（三代） 明治15年（1882）

○海外資料

英語を中心にドイツ語、フランス語、ロシア語、及びその他の外国語で書かれた資料を所蔵

○東京資料

東京都（東京府、東京市）の行政資料及び東京に関する資料を収集・所蔵
明治以降の地図を多数所蔵



『大東京名所案内図』

○地方史

全国の県史、市史、郡史、町村史などの地方史を多数所蔵

○美術情報

美術全集や展覧会目録など約7万冊を所蔵

(2) 都立中央図書館の概要

企画展示・イベント

○近隣の大使館と連携した企画展示

近隣に大使館が多く所在していることから、海外の資料やパネルを展示する企画展を多数開催



日本とペルーの国交樹立150周年を記念した『ペルー展』



○講演会・セミナー

就職活動やビジネスに役立つ情報収集の仕方等について、専門機関と連携してセミナー等を実施

○作家を招いたトークイベントを開催

読書活動推進のため、著名な作家を招いたトークイベントを開催



こどもの日トークイベント「「図書室で暮らしたい」ふたりの話」

○時事・社会問題に関連したミニ展示

オリンピック・パラリンピック、関東大震災100周年、ノーベル賞受賞等

（３）都立中央図書館に関するこれまでの検討

① 都立図書館在り方検討委員会（令和３年３月最終報告）

今後求められる都立図書館として担うべき役割を整理

- デジタル技術の進展に対応したサービスを提供する図書館
- どこでも、誰でもサービスを享受できるインクルーシブな図書館
- 都民の研究・交流を支援し、新たな知識を生み出す図書館

② 都立中央図書館の在り方を考える有識者会議（令和５年１０月）

中央図書館の施設の老朽化を踏まえ、デジタル社会における図書館の担うべき機能等について意見を聴取

【これからの図書館を考える視点】

- 図書館の利用方法がリアルとサイバーに分かれてくる。障害者だけでなく、様々な意味で情報に触れ合う機会がなかった人にも**気軽に情報と触れ合える接し方が用意されていると、リアルな図書館の意義がある**
- 読書に困難を抱える方への支援技術を一般の人にも紹介し、広く読書を知ってもらうことも重要**

【これからの図書館が担う機能】

- 図書館の中核にあるべきものは本で、その**「本」はこれまでの概念を超え、「映像や音響等を含む」「インタラクティブで読者の書込も可能」「ユビキタス」といった特徴を持つ**
- 「本」への無関心層、子どもや障害者など**多様な人がターゲット**になり得る
- 図書館は知を消費するだけではなく、知を創造する場**となる。
- 飲食をしながら来館者が語り合う**シンポジオン（饗宴）のような場、コンサート・演劇の上演などシアターとライブラリーがイコールという場、工房でもあるものが図書館という再定義が必要**

【コンセプトのベースとなる考え方】

- 「創造」「クリエイション」**。図書館に来た人全員が、それぞれの仕方で創造する仕組みを図書館が提供

都立中央図書館の在り方の概要

検討の背景

都立中央図書館の施設で老朽化が進行。また、DXの進展など社会環境の変化や、海外の図書館等で従来の閲覧提供機能に加え、新たな価値や機能を提供していることを踏まえ、再整備を見据えて新たなコンセプトや機能等を検討

社会環境等の変化

- 都市課題のグローバル化やDXの進展等
- 北欧の図書館等で文化的な対話の場、多様な学びの場など新たな価値や機能を提供

世界の図書館の潮流

デジタル技術を活用した展示や創作活動の場の提供

- デジタル技術を活用した大型スクリーン展示。デジタル工作機器による創作
- 利用者同士の対話・交流や、様々な分野・情報に触れて学ぶ機会を提供**
- ワークショップなどを開かれた場所で開催。イベントや講演会、展示などを常時実施



大型スクリーンによる展示



利用者同士の対話・交流

新たな都立中央図書館について

デジタル社会におけるリアルな図書館の意義は、本から必要な情報を探すことにより物事を俯瞰できたり、偶然手にした本から多様な情報が得られ、意外な発想や新たな発見を生むことにある

コンセプト

「Library for Creation（創造・交流図書館）」 図書館を新たな智を生み出す空間と捉える

新たに付加する機能

知的好奇心を喚起し学びを深める

- 子供や障害者など、多様な人々が気付きを得る体験をする
- 所蔵資料を基にした学びや体験をする

人々の創造や交流を生み出す

- 多様な形で、人々が創造に取り組むことができる
- 人々が交流し、気付きや思索のきっかけを得る

多様な知を集積・発信

- 活字の本、音楽や映像、人も含めた多様な形態の知が集まり、発信していく

3点の機能が、相互に作用・循環することで新たな智の創造につながるものとする。

- 具体的な取組に当たっては、3点の機能を貫くテーマで事業を実施し、調査研究への貢献という従来の強みを生かしたサービスを展開
- 従来の強みについても、魅力的な開架・閲覧空間の提供、アクセシビリティの確保などにより進化

施設整備の基本的な考え方

- 現地改築では解体・新築工事に伴う休館等により十分なサービス提供が不可能であることなどから、移転して実施
 - アクセスが良く、多くの人々が行き交い、周辺に教育機関が集積し様々な活動が展開されている神宮前五丁目地区の都有地に整備
- ⇒ 当該地区に集積予定の多様な機能と連携しながら、東京全体の智の向上を図る

まちづくり方針策定の背景・経緯

都は、渋谷駅から表参道につながる青山通りの沿道に位置する旧こどもの城について、誰もが利用できる複合拠点「都民の城（仮称）」として活用するため、「都民の城（仮称）改修基本計画」（令和2（2020）年2月）を策定した。「都民の城（仮称）改修基本計画」では、「遊び・学び・仕事を通じて、子供をはじめとした都民が交流し、成長できる場」をコンセプトとして、旧こどもの城を当面の間利用するとともに、長期的には、周辺都有地との一体利用により、「都心部に残された東京の成長を支える重要な用地」として活用案を描くこととしていた。

その後、コロナ禍を経て都民の生活意識、行動及び求められる行政ニーズも変化し、加えて経済面等の効率性や都有財産の有効活用の観点から、令和4（2022）年5月に本計画の実施は見送り、都民の城（仮称）が目指す理念を生かしつつ、ポストコロナのまちづくりのモデルケースとするため、「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」を設置し、都有地の一体活用に向けた具体的なまちづくりの検討を行い、将来像を示す。

まちづくり方針の位置付け

「神宮前五丁目地区まちづくり方針」（以下「本方針」という。）は、旧こどもの城の敷地及び周辺都有地の歴史、変遷並びに「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」等での意見を参考に、都として、神宮前五丁目地区のまちづくりの将来像や進め方を示すものである。

今後、本方針に基づき、すべての「人」が輝き、一人ひとりが幸せを実感できるような「成長」と「成熟」が両立した「世界で一番の都市・東京」の実現にも寄与しながら、当地区のまちづくりを推進していく。

■まちづくり方針の対象区域と地域特性



※この地図は、国土地理院長の承認（平29国認公第444号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（4都市屋交第68号）して作成したものである。無断複製を禁ずる

＜渋谷駅周辺エリア、神宮前エリアの地域特性＞

文化・交流、教育施設等が集積し、渋谷と表参道などとの結節点として、多様な人が行き交うまち

＜当地区の現状・特性・歴史＞

子供、文化、女性活躍、スタートアップ、国際交流など様々な機能が個々に効果を発揮してきた。

将来像

文化・交流・教育施設等が集積する地域特性や、子供・国際交流・女性・スタートアップなど、様々な支援等に係る機能が個々に効果を発揮してきた地区の現状、また、コロナ禍を経たまちづくりの捉え方の視点等を踏まえ、当地区では、「人への投資」を一層加速させ、「人」の力を高め、引き出し、一人ひとりが主役になる社会の創出につながるまちづくりを進めていく。

旧こどもの城が担ってきた「子供の健全な育成」という役割を踏まえ、子供・若者が希望を持って自ら伸び、育ち、未来を創造できる場へと発展させていく。

また、青山劇場・円形劇場の芸術文化の創造、発信地であった歴史等を踏まえ、多様な人々の感性を育み新たな価値の発見をもたらす環境づくりを進め、芸術文化で躍動する都市東京の実現に寄与していく。

当地区では、こうした基本的な考え方を踏まえ、以下のとおり将来像を設定し、将来像の実現を通して、誰もが将来の夢や希望を叶え、一人ひとりがもっと輝く東京の実現に寄与していく。

将来像

誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」

- ・機能間の連携により、子供をはじめとした多様な人々の交流や創造活動が、新たな文化・アイデアの創造、個々人の成長につながる場
- ・多様な過ごし方を選択でき、心の豊かさを実感できる、憩いと交流の場

< 「智」の趣旨 >

「知」で意味する“知識の習得・情報の収集”にとどまらず、それをどのように使うのか、活用するのかという意味を含む「さといの『智』」とすることにより、多様な人々が創造・交流活動等を通じて、深い理解や洞察を得る能力、知識を実際の状況で応用する能力を高められるという趣旨で、「『智』の創造拠点」とする。

「智の創造拠点」では、受動的だけではなく、能動的な活動を誘発する環境を整備することで、一人一人が心の豊かさを実感でき、自己実現が図れる場を目指していく。

将来像実現に向けた導入機能

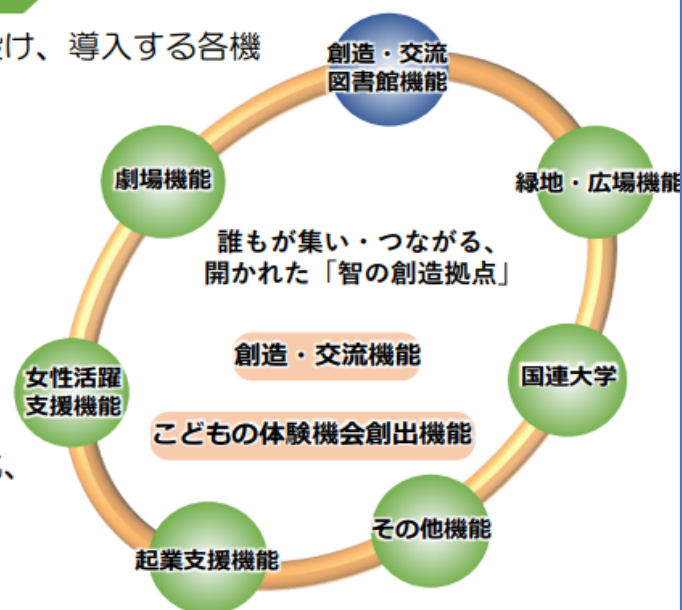
将来像を実現していくに当たり、「当地区全体で役割を果たす機能」及び「軸となる機能」を設け、導入する各機能を相互に連携させ、相乗効果を発揮させていく。

「当地区全体で役割を果たす機能」としては、文化・交流・教育施設等が集積し、多様な人が行き交う当地区の特性や、旧こどもの城が次代を担う子供たちが心身ともに健やかに成長していくために重要な役割を担ってきたことを踏まえ、“創造・交流機能”や“こどもの体験機会創出機能”とする。

「軸となる機能」としては、人々の交流拠点やコミュニティの核となり、創作活動の場やインスピレーションを得る場として新たな価値や機能を提供する“創造・交流図書館機能”とする。

「各機能」としては、様々な人の成長を支えるために、これまで個々に効果を発揮してきた文化、女性活躍、スタートアップ、国際交流などの機能とする。

なお、持続的な発展を図っていくため、導入機能は時代のニーズ等に応じて柔軟に変化していくことも想定している。



当地区全体で役割を果たす機能

①創造・交流機能

訪れる人の知識、創造性及び好奇心を育むとともに、人々の活動・交流の受け皿となり、人々の個性や可能性を開く。

②こどもの体験機会創出機能

乳幼児から中高生まで、子供の興味・関心に応じて多様な体験ができる場を創出することで、子供の将来の可能性を広げるとともに、子供を育てる親にも親同士の交流機会や憩いの空間を提供

軸となる機能：

創造・交流図書館機能

今までの枠組みを超えた創造・交流図書館を軸として、その他の導入機能と連携し相乗効果を発揮しながら、まちの将来像を実現していく。

各機能：

劇場機能：多様な人々の感性を育み、「創造・交流図書館機能」等との相乗効果で新たな価値の発見を誘発

女性活躍支援機能：女性のキャリアアップや活躍の基盤づくりを後押しし、その知見による価値創出・発信

起業支援機能：スタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育等、人々の好奇心喚起・創造意欲を創出

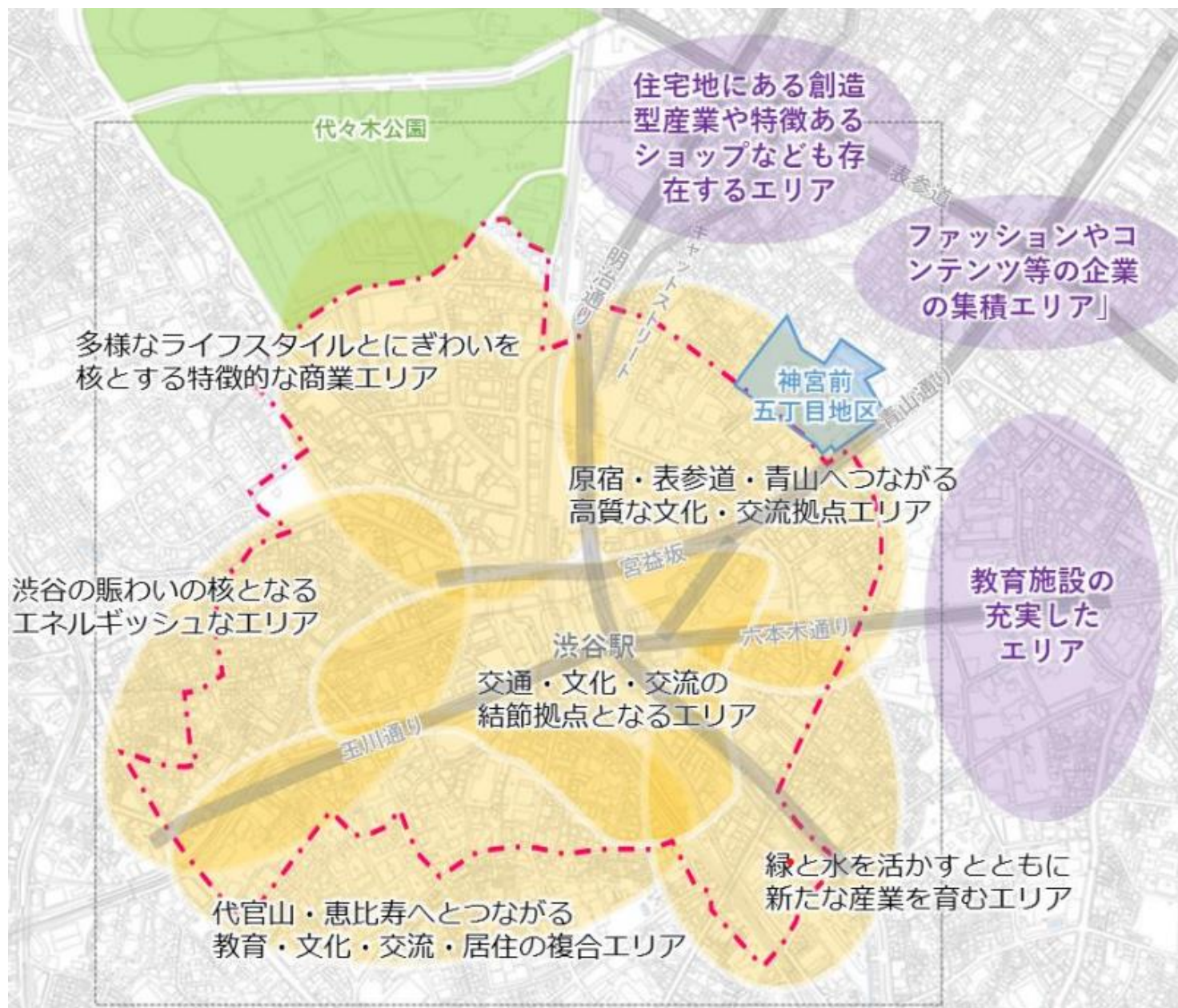
国連大学：国連大学と協力・連携することで、誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」を共創

緑地・広場機能：居心地の良い空間で各機能や人と人とがつながることで創造・交流活動を誘発

その他機能：その他、将来像実現のために必要な機能

(4) 整備地について

○ 神宮前エリアの地域特性



(※) ベース図は国土地理院の基盤地図情報を使用

出典：神宮前五丁目地区まちづくり方針

(4) 整備地について

- これまで整理した当地区及び周辺の強み・課題を以下にまとめる。(※第2回検討会で新たに整理した強み・課題を加筆)

緑の分布

- (※) ○…強み △…課題
- 代々木公園の大規模な緑が分布
 - 当地区に残る琵琶池とその歴史性
 - △当地区周辺は緑の連続性に欠ける



地形

- 当地区は高低差のある豊かな地形を有し、凹部に琵琶池が存する
- △当地区と渋谷駅周辺で約20mの高低差があり、まちあるきの快適性に課題あり

住宅機能

- 当地区後背の住宅地による閑静な環境
- 子育て世帯、外国人人口の割合が渋谷区全体と比べて高い



教育・文化・交流施設

- 教育・文化・交流施設の集積
- 当地区内外に複数の大学が立地
- 旧こどもの城等の子供の遊びと学びの場の歴史



出典：こどもの城 館内案内リーフレット

宿泊機能

- △外国人観光客の来訪が多い一方でホテルが少ない

商業機能

- 青山通り、キャットストリート、表参道等の沿道のにぎわい



歩行者ネットワーク

- 様々な規模と機能を持つ特徴ある歩行者空間によりネットワークを構成
- △幹線道路等の主要動線から地域内に人を呼び込むための要素が少ない
- △地域内の滞留空間が不足し、歩道空間も狭い



道路空間の機能・役割

- 当地区が接する青山通りは多くの車両や歩行者が通る幹線道路として機能
- 大山街道の歩行者中心の道路空間実現に向けた取組(宮益坂では歩行空間の拡張、滞留空間としての活用を推進)
- △当地区周辺の広幅員道路では滞留空間としての活用はあまり見られない

エリアマネジメント

- 渋谷駅を中心に複数のまちづくり組織が活動を展開
- デジタルツインによるまちづくりの取組

防災

- 当地区内外に複数の帰宅困難者受入施設や避難場所が指定
- △当地区後背の住宅地における避難経路が十分に整っていない

ファッション機能

- ファッション・雑貨系の小売店の集積が顕著

スポーツ施設

- 渋谷区には国立代々木競技場等の国内・世界レベルのスポーツ観戦施設が立地
- 当地区近傍に宮下公園等の運動・スポーツを楽しめる施設が立地

来街者数

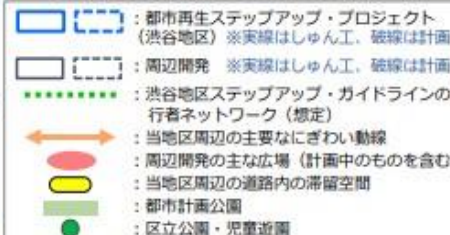
- 平日・休日問わず渋谷駅周辺の来街者が非常に多い

クリエイティブ産業

- 他区と比べて舞台芸術、音楽、映像、デザイン系が栄えている

スタートアップ企業

- 渋谷区はスタートアップ企業(IT等)の数が東京23区で最多



(※1) ベース図は国土地理院の基礎地図情報を使用、鉄道網は国土数値情報の鉄道データを使用
(※2) 各写真は事務局が撮影(旧こどもの城の写真を除く)

3 サービス内容について

【ご意見を伺いたい事項】

- 3つの新たな機能を実現するための具体的なサービスや必要となる施設・設備
- サービスを効果的に展開するための仕組み（実施主体・運営手法）
- 神宮前五丁目地区において、周囲の多様な機能と連携し、相乗効果を発揮するための方策

- 新たな都立中央図書館のコンセプトは、「Library for Creation（創造・交流図書館）」であり、図書館を新たな智を生み出す空間と捉える
- 3つの機能が連動し、それぞれの機能に好影響を与えることにより、将来ビジョンを実現するための好循環サイクルを構築するとともに、これらを実現するための環境整備や各種取組を推進するイメージとしている

【具体的な取組イメージ】

- ・本の世界を五感で体験、貴重資料の展示
- ・子供が知的体験を通して学べる遊び場づくり
- ・各分野の著名人による講演会 等

機能①

知的好奇心を喚起し学びを深める

- ✓ これまで都立図書館を利用したことがない人も含めた多様な人が集まることにより、新たな交流と創造を誘発
- ✓ 新たな交流が生まれ、コミュニティが生まれることにより、更なる知的好奇心を喚起

【具体的な取組イメージ】

- ・創造のためのメイカースペース（3Dプリンタ等）
- ・読書ができるカフェ、ラウンジ、ミーティングスペース 等

機能②

人々の創造や交流を生み出す

Library for Creation（創造・交流図書館）
～新たな智を生み出す空間～

機能③

多様な知を集積・発信

- ✓ 多様な知に誰もがアクセスできることにより、知的好奇心を喚起
- ✓ 本に興味がない層等、新たな層の利用を拡大
- ✓ 子供や障害者等、多様な人々が気づきを得る体験をする

【具体的な取組イメージ】

- ・誰もが利用できる展示スペース、発表の場 等
- ・海外の図書館との交流拠点

- ✓ あらゆる知へアクセスできることにより、創造活動や課題解決を促進
- ✓ 創造した知を発信することにより、新たな情報資源を図書館に提供